

ゼロテンションの作法

アカムツにアタリを出させるカギ。

【アカムツ釣りのゼロテンションとは】



①砂泥底からオモリを引き抜く ②オモリを底に寝かせて



③穂先が曲がるか曲がらない程度をキープ ④道糸を出し過ぎないように注意

チモトに浮力のあるポールやパイプを付けるのも、エサを濡わせるため。エサはホタルイカとサバのタンザク



▲自然にパーミングできるサイズのため手持ちでの誘いも快適



▶アカムツだけでなく他魚のアタリも重要なヒントになる



【ビーストマスター2000】

「オモリ200号以上でも楽らく上げてしまうパワーとスピードがあり、糸巻キ量はPE3号500メートル。それでいて手持ちで誘えるサイズのビーストマスター2000は、カンネコだけでなく犬吠崎沖や他のエリアでもアカムツ釣りに使う上で弱点がないリールです。探見丸スクリーンにより手元で海中の状況が分かるのもメリットです。(松本圭一)」
 ●SPEC ギア比=5.1 最大ドラッグ力=15kg 自重=690g 糸巻量PE=3号-500m、4号-400m、5号-300m 最大巻上長=70cm/ハンドル1回転 ハンドル長=60mm 実用巻上持久力=9.5kg 最大巻上速度215m/分

▲巻き上げ中の安定感と剛性は圧倒的。その心臓部は高温時も強力なパワーを発揮するギガマックスモーターと脅威の耐久性を実現した強化ギアシステム



▲海中の情報と自分の仕掛けの位置をビジュアルで把握できる探見丸スクリーン

食の作法

アカムツの煮付け
～肴にも主菜にもなる
至高の煮付け～



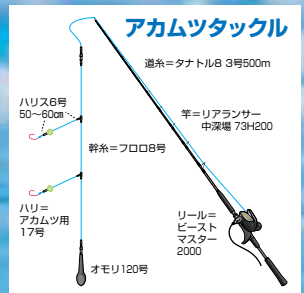
【材料】アカムツ2尾、ショウガ1片、水150cc、酒150cc、みりん大さじ3、砂糖大さじ3、しょう油大さじ3



①鍋に水、酒、みりん、砂糖、薄切りにしたショウガを入れて煮立たせ、下処理をしたアカムツを入れる
 ②吹きこぼれないように2分ほど煮たらしょう油を入れ……
 ③落とし蓋を使い煮る。煮汁がトロツとしてきたら……
 ④味を見て適宜しょう油を加え、煮汁をかけながら照りが出るまで煮詰める

たとえば当日も、前半はテンションをしっかりと抜く松本圭一さんの誘いが効果を発揮し、終盤は張り気味のゼロテンで小さなアタリに合わせる鈴木新太郎さんが結果を出した。仕掛けにしても、ハリの形状とサイズ、軸の太さ、浮力のあるアクセサリなど選択肢は多く、ハリスは潮の効き具合により微調整する。捨て糸にしても長さには根拠があり、ユメカサゴが多い場合には長くして対応する。それら判断の手がかりの多くは、他魚や、魚信があつて掛からないときのエサの確認で得ることができる。つまり、アカムツ釣りは小物釣り同様に、竿を手に持って誘い、手返しを繰り返すことが重要になる。そのため、道具は強く、軽く、操作性と感度に優れているほど楽しめる。今回2人が使ったビーストマスター1200は「小で大を兼ねる」高性能リールであり、リアランサー中深場73H

200はカンネコ根でも、犬吠崎沖でも好みのスタイルで「誘える竿」。最先端の道具がアカムツに出会う確率を上げてくれるとともに、この釣りの魅力をさらに高めてくれることだろう。



【リアランサー中深場/73H200】

「アカムツ釣りを知っている人ならオモリを抜く時の感触のよさでピンとくるはず。一言で言えば軽くて操作性のいい竿です。メリハリが効いているので、今日使った73H200はカンネコだけでなく犬吠崎沖でも大丈夫。200号オモリを使う深い場所では73H200に加え73HH200、さらに積極的に誘うなら82HH195でもいいと思います。(鈴木新太郎)」
 ●SPEC 全長2m 2本継ぎ 仕舞寸法103.5m 自重219g 先径1.9mm オモリ負荷80~200号 カーボン含有率78%



▲Xシートエクストリームガン ▲軽くしなやか、かつブレの少 ▲73MH、H、HHと82HH、好グリップにより手首への負担を ないグラスソリッド&ハイバフ みで使い分けたい 軽減 ソリッド穂先

手持ち竿での誘いをより快適かつ正確に。

タックルの作法



「船釣りの作法」動画公開中。
 YouTube SHIMANO TV
 公式チャンネルにてご視聴いただけます。